

## 新年のご挨拶 2023(令和5)年 新春

明けましておめでとうございます。

皆さまが、柔らかな日差しと穏やかな笑顔で新しい年を迎えている様子を想い描きつつ、新年のご挨拶をさせていただきます。

昨年は、次々に姿を変えていく新型コロナウイルスとの付き合い方を模索しながら、それぞれの営みの維持と発展を考える年となりました。また、2月のロシアによるウクライナ侵攻後、私たちの関心には常に「戦」「命」「人権」「国家」がありましたし、エネルギー、食糧、そして情報が、地理的・文化的・政治的境界を越えて連なり動いていることを思い知らせています。この事態に、自身の社会的存在意義を問うた方も少なくなかったのではないのでしょうか。本学会も、こうした社会的情勢を背景に、日本語教育に対する社会的ニーズが高まり、日本語教師の資格化、日本語教育機関の認定・評価の制度化の検討が進む中、同様に社会的役割を問われ続けました。

そこで、改めて本学会の2022年度の取組について簡単にご報告いたします。第二次中期計画(2021年3月)が掲げる「緩やかな事業整理と資源の集中」を体现すべく、次の3つを重点項目として運営しています。

1. 対外的発信力・広報力の強化を図るために学会のWebサイトの改修を行いました。2022年10月より試行をおこなっており、2023年4月には、本格的な運用へ移行します。
2. 会員の多様な研究や実践の質的向上と相互交流の促進を目指し、オンライン交流の場の充実を図り、日本語教育学の構造化に取り組んでいます。2022年度秋季大会は対面開催の予定でしたが、新型コロナの感染状況に鑑み、オンライン開催に変更しました。これまでの経験と大会委員会の周到な準備により、充実した研究・実践交流の場を提供できました。日本語教育学の構造化に関しては、2023年5月を目途にワーキンググループからの報告を予定しています。
3. 第二次中期計画の折り返し地点を迎え、現在、財力、人力の観点から実施状況と計画について中間評価を実施しています。本年度末には事業全体の精査・整理に向けて検討を行います。

また、延期されていた国際研究大会(ICJLE)は、2024年8月1-3日に、アメリカのウィスコンシン大学マディソン校にて開催されることになりました。

この他、日本語教育を担う次世代の人材育成に関し、文化庁の「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」を受託し、児童生徒に対する日本語教師【初任】研修、日本語教師【中堅】研修を実施しておりますが、高い評価を得ています。さらに、2ヶ年の事業として同庁の「『日本語教育の参照枠』を活用した教育モデル開発事業」も受託し、運営しているところです。公益社団法人として社会的貢献を眼目にこうした活動を展開しておりますが、これに加え、独立した学術団体として、国の外国人受入に関連する日本語教育施策の立案過程にどのように関わるかも問われます。そこで、2023年4月にはこの問題に関連するシンポジウムを開催する予定です。

以上ご報告したように、各委員会・ワーキンググループのメンバー、そして会員の皆様の参与のおかげで、本学会はコロナ禍後の一步を踏み出し、新たな姿を形作ろうとしています。皆様のご尽力に、改めて感謝申し上げます。本年も引き続き、本学会の活動へのご参加・学会運営へのお力添えをよろしく願いいたします。そして、ことばとその教育に関心をお持ちの皆様、是非、本学会のイベントの場にお運びください。そこにはきっと、多様性と創造性にあふれるしなやかな空間があるはずで、本年こそ、直に顔の見える交流の場を開き、皆様にお目にかかれ、心より願い、新年のご挨拶とさせていただきます。